

# 台風10号に伴う停電復旧対応の振り返り

2020年12月24日

九州電力株式会社  
九州電力送配電株式会社



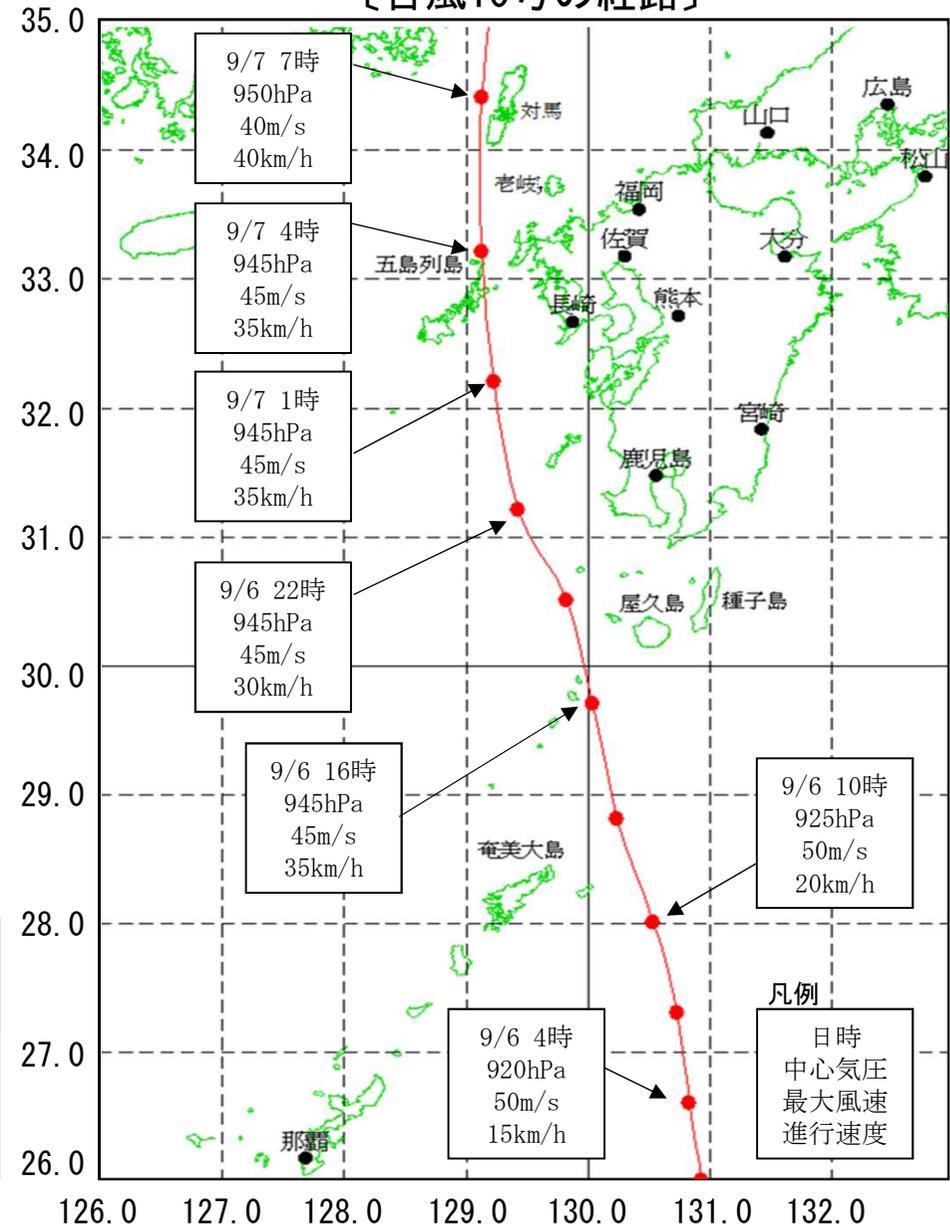
ずっと先まで、明るくしたい。

- 台風10号は、9月6日から7日にかけて非常に強い勢力を維持したまま東シナ海を北上し、九州の西側を通過
- 特別警報級（条件：中心気圧930hPa以下か、最大風速50m/s以上）の勢力での九州接近が予想されたが、九州接近前に勢力が急速に減退
- 最大瞬間風速は、6日に鹿児島県中之島で46.5m/s、7日に長崎県野母崎(のもぎき)で59.4m/sを観測

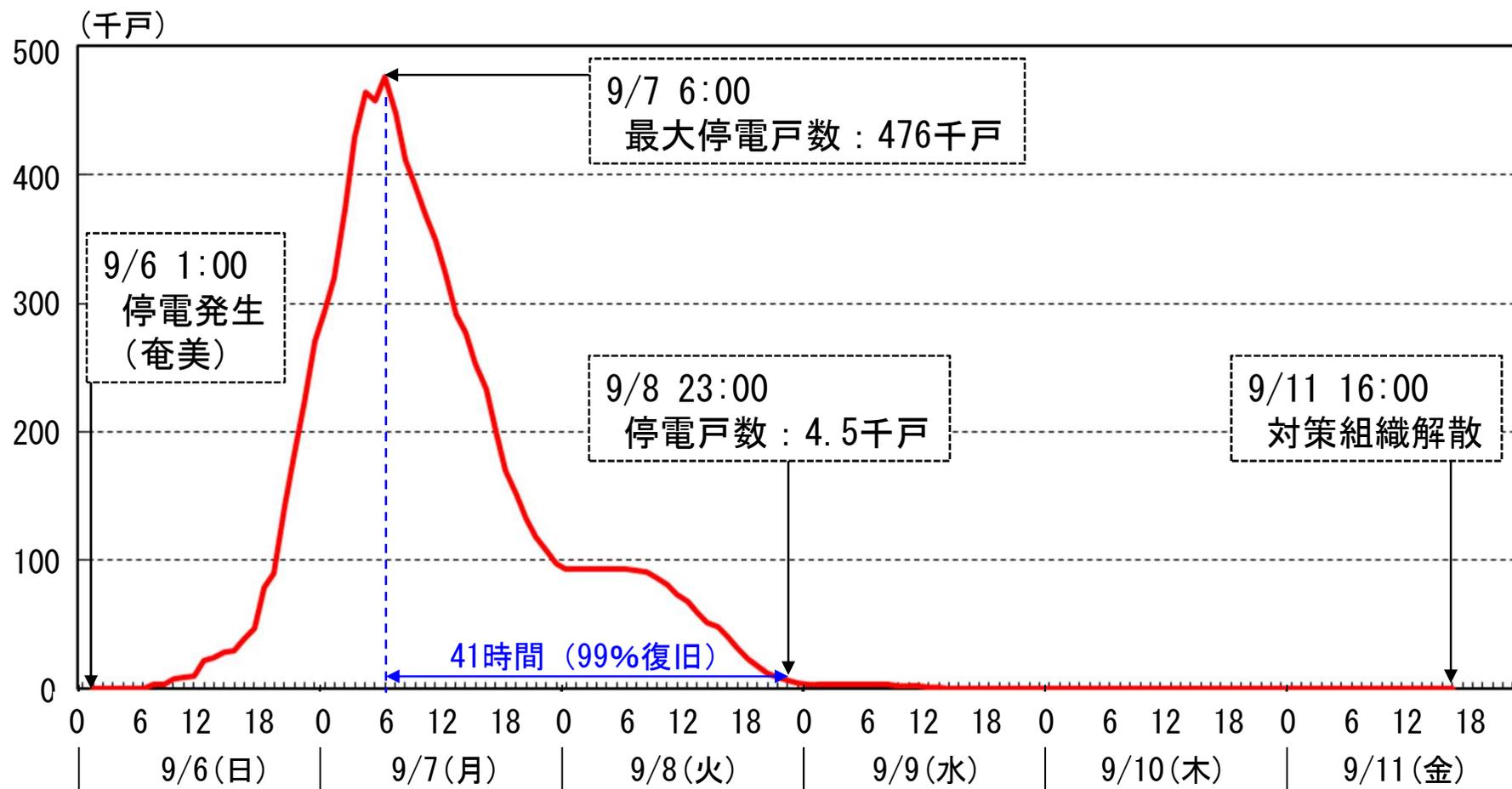
〔最大瞬間風速実績〕（9月5日 0時～9月9日 18時）

	佐賀	野母崎 (長崎)	牛深 (天草)	中之島 (鹿児島)
最大瞬間 風速[m/s]	41.6 (7日 3:31)	59.4 (7日 1:45)	38.7 (7日 1:20)	46.5 (6日 14:57)

〔台風10号の経路〕



### (1) 停電状況



#### [県別の最大停電戸数]

	福岡	佐賀	長崎	大分	熊本	宮崎	鹿児島	九州全体
最大停電戸数[千戸]	12.8	26.8	173.8	20.9	25.3	57.1	262.3	476.0

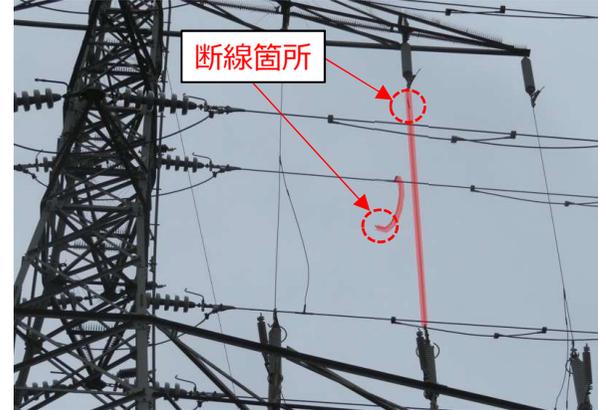
(2) 設備被害状況

設備	被害内容
配電	支持物：163本（折損他）、電線：4,705条径間（断混線他）
送電	電線：2箇所（断線）、1箇所（損傷）
通信	光ケーブル：5条（断線）

鹿児島（さつま町）：支持物の折損



長崎（長崎市）：接続線の断線



熊本(天草市)：電線の断混線



宮崎(椎葉村)：土砂崩れ



### (1) 対応要員の事前確保

- 過去の類似台風の実績等を踏まえ、九州電力・九州電力送配電をはじめ委託・請負先一体となった最大限の体制を構築（最大約11,000人）
- 広範囲にわたり設備被害が想定される配電部門においては、他部門・協力会社も含めた応援派遣を行い、約3,000人（約1,500班）を巡視班として確保
- 離島については、フェリー等の交通手段が途絶する前に要員を派遣

#### 〔離島への事前派遣〕

派遣先	派遣要員
壱岐・対馬	66名
五島	61名
甌島	13名
種子島・屋久島	38名
奄美諸島	63名
合計	241名

### (2) ドローンおよび通信手段の確保

- 土砂崩れ等による巡視困難箇所が発生に備えてドローンを、また通信手段の途絶に備えて衛星通信（VSAT、衛星電話）を各エリアに確保

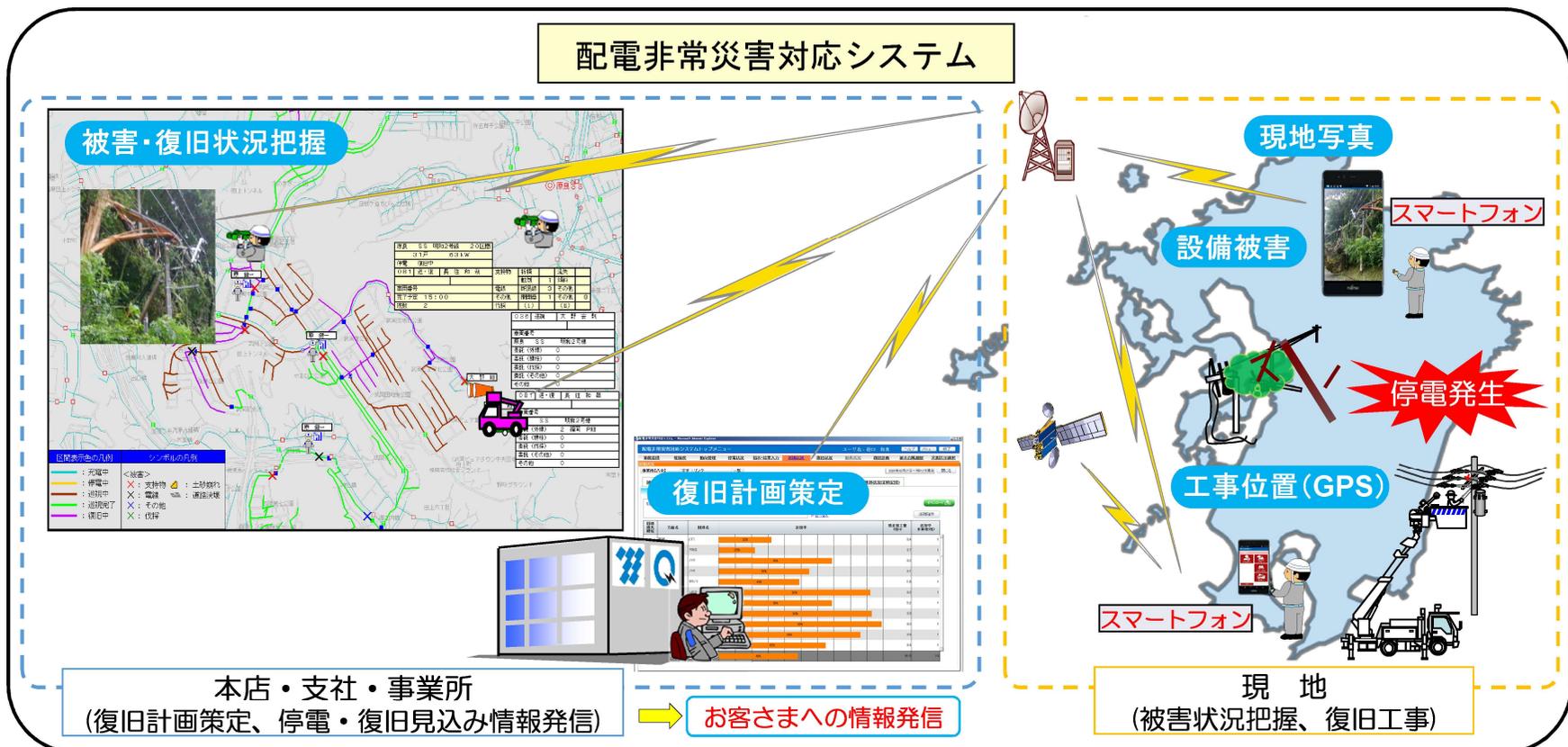
### (3) 他社受入れ拠点の設置

- イオン(株)さまとの災害時の連携協定に基づき、イオン（佐賀大和・鹿児島）、イオンモール熊本での駐車場を他社受入れ拠点として台風襲来前に設置



## (1) 復旧対応

- 復旧対応にあたっては、委託・請負先を含め最大約7,300人を動員して対応
- 台風通過後、風雨の収まったエリアから順次巡視を開始し、設備被害を速やかに把握
- 配電部門においては、設備の被害把握から復旧計画・指示を一元管理するシステムを活用し、迅速に復旧



## (2) 発電機車の対応

- 土砂崩れにより孤立したエリアの早期送電を図るため、高圧発電機車を搬入し、スポット送電を実施 (1台)



### (3) 他社からの応援受入れ

- 甚大な被害発生の可能性を考慮し、台風の影響がないと見込まれた関西以東の6社に対し応援要請を行い、復旧要員と高圧発電機車の応援を受入れ※

※ 想定より被害が少なく、自社のみで復旧対応が可能であったため、他社の実働はないまま応援受入れを解除

#### 〔各社からの応援状況〕

	応援内容	
	復旧要員	高圧発電機車
北海道	32 名	7 台
東北	70 名	8 台
東京	44 名	10 台
中部	104 名	10 台
北陸※	76 名	8 台
関西	36 名	10 台
合計	362 名	53 台

※一部に工事会社社員を含む

## (4) コロナウイルス感染拡大防止

- 今回の復旧作業はコロナ禍での対応となったことから、以下の感染拡大・防止対策を実施
- なお、他県からの応援派遣に当たっては、事前に関係自治体の了解を得たうえで対応

項目	対応内容
体調管理	○ 発熱や咳・強いだるさ・息苦しさ等の自覚症状等の有無確認
応援者選定	○ 健康状態を含めて本人に確認の上、応援者を選定
移動手段	○ 通勤時間帯等密となる時間帯の電車やバス等の公共交通機関の使用をできる限り回避し、社有車等を使用
打合せ・待機	○ 事業所、集結拠点等における3密の防止
宿泊施設	○ 個室(1人/室)とするよう宿泊施設の確保を配慮 ○ 食事においても3密防止に配慮(他の企業の利用や事前避難等で被災当初は困難な状態)
予防対策物資	○ 支援班や応援者によるマスク、消毒液、体温計等の予防物資の追加配備を実施

## (1) 復旧見込みの発信

- 迅速な巡視によって被害状況を早期に把握できたことから、エリア全体の復旧見込みを速やかに発信（停電のピーク：9/7 6時 → 復旧見込み発信：9/8 5時）

## (2) SNSによる情報発信・コールセンター対応

- ホームページ、携帯メールサービス、ラジオスポットCM、ツイッター、フェイスブックを活用して情報を発信
- コールセンターへの問合せ（約121,000件）
- 自動応答専用ダイヤルへの問い合わせ（約3,900件）
- チャット※での問合せ（約7,300件）

※ 一般送配電事業者による共通チャットシステム  
（2020年9月より5社で運用を開始）

### 【復旧対応に対する感謝のコメント】

- 7日の夜になっても電気が戻らず、今日中は無理だなと暗闇で過ごしていたところ、20時過ぎに明かりが灯り、思わず拍手をしてしまいました。こんな時間まで九電さんが復旧作業を続けていたなんてと、夫と喜びました。感謝の言葉しかありません。
- 関東在住ですが、対馬と宮崎に両親がおります。停電の長期化による熱中症を大変心配していましたが、すぐに復旧できたことを知り、遠くの地から何もできず祈ることしかできなかった身としては涙が出るほどありがたかったです。九州在住の方を直接救っただけでなく、遠くから家族の無事を祈るしかできなかった私のような人を救ってくれたお礼をどうしてもお伝えしたくて連絡しました。

### 【ツイッターによる情報発信】



九電グループ  
@Kyuden\_official

台風10号の影響により、9月8日(火)20時現在、佐賀県、長崎県、宮崎県、鹿児島県で約12,350戸が停電し、大変ご迷惑をおかけしております。[#台風 #台風10号](#)

■最新の停電情報はこちら

[kyuden.co.jp/td\\_emergency/p...](https://kyuden.co.jp/td_emergency/p...)

佐賀県、宮崎県は概ね本日(9月8日)中、(続く)



復旧作業の様子(長崎県長崎市)

ドローンで撮影した復旧作業の様子(佐賀県唐津市)

## (1) リエゾンの派遣・受け入れ

- 迅速な情報収集・連携による早期復旧を図るため、7県(九州全県)5市村、および経済産業省へリエゾンを派遣
- 経済産業省から政策立案総括審議官を含めた5名のリエゾンが常駐。復旧に関する打合せを行うなど、早期復旧に向けた情報共有・協議を実施

派遣元	派遣先	派遣期間	最大派遣人数
北九州支社	福岡県	9/6~9/7	3名
福岡支社	福岡市	9/6~9/7	2名
	壱岐市	9/7~9/8	2名
	甘木市	9/7	1名
	佐賀支社	佐賀県	9/6~9/7
長崎支社	長崎県	9/7~9/9	2名
大分支社	大分県	9/7	2名
	津久見市	9/7	1名
熊本支社	熊本県	9/6~9/8	3名
宮崎支社	宮崎県	9/6~9/9	2名
	椎葉村	9/8~9/10	2名
鹿児島支社	鹿児島県	9/7~9/9	2名
東京事務所	経済産業省	9/7~9/8	1名

## (2) 県・自衛隊との連携

- 鹿児島県の防災ヘリにて、鹿児島県十島村中之島へ、復旧要員・物資を輸送
- 陸上自衛隊のヘリコプターに当社社員が同乗し、口永良部島の配電設備被害状況を調査



鹿児島県防災ヘリによる十島村中之島への  
人員・物資輸送



陸上自衛隊ヘリによる口永良部島の巡視

### (3) NEXCO西日本との連携

- NEXCO西日本さまとの協定に基づき、鹿児島エリアへの応援車両合計88台（北陸電力送配電からの応援車両20台含む）の高速道路通行止め区間の車両通行を要請※1

※1 高速道路通行時には通行止めが解除されていたことから、通行止め区間の通行実績なし

#### [通行止め区間の通行要請]

	通行区間			台数
1	福岡 I C	～	栗野 I C	9 台
2	広川 I C	～	栗野 I C	6 台
3	熊本 I C	～	末吉財部 I C	17 台
4	益城熊本 I C	～	末吉財部 I C	20 台
5	八代 I C	～	鹿児島 I C	16 台
6	門司 I C	～	鹿児島 I C	20※2 台
合計				88 台

※2 北陸電力送配電応援車両

### (4) イオンとの連携

- イオン(株)さまとの協定に基づき、イオン（佐賀大和・鹿児島）、イオンモール熊本の駐車場を他社受入れ拠点として台風襲来前に設置